

臨床福祉専門学校
言語聴覚療法学科 学校関係者評価報告書

1. 委員会

① 日時：平成 26 年 2 月 6 日（木） 15：00～16：00

② 場所：203 室

③ 出席委員及び所属

赤生 秀一（一般社団法人 日本補聴器工業会理事長）
新井 英希（一般社団法人 日本補聴器販売店協会常務理事）
福澤 理（NPO 法人 日本補聴器技能者協会副理事長）
川端 右子（メドエルジャパン株式会社）
内野 滋雄（事務局 「学校長」）
内藤 明（事務局 「副校長兼言語聴覚療法学科長」）
萬崎 保志（事務局 「事務次長」）
樋口 豊朗（事務局 「教務主任」）
小室 加奈子（事務局 「学務課」）

2. 議事要約

1) 学校関係者評価に関する説明

学校関係者評価のサイクルを資料に基づき説明。（事務局）

2) 学校関係者評価の議事要旨

- 前回委員会に引き続き、追加で評価を頂ける箇所があればご指摘を頂きたい。（事務局）
 - 基準 5（学生支援）について、以前就職活動で O B 訪問に来た在校生から、学生相談の窓口があると聞いた。学生のサポート体制としてとても評価できる。（委員）
 - 学生相談室は、非常勤の臨床心理士が隔週土曜日で相談に応じている。学生にまずまず利用されているという認識である。（事務局）

- 『自己評価報告書』の「今後の改善方策」について。改善のメドが明確に示されていない点は改善を求めたい。（委員）
 - 貴重な意見として承る。25 年度の自己評価報告書の作成の際、早速意見を反映させる。（事務局）

- 自己評価報告書の成り立ちや評価基準など、中身を見ても判らないことが多い。学校側からより明確な仕組みや情報提供が欲しい。（委員）
 - 普段学校業務に携わっていない業界関係者の立場からすれば、養成施設が自己点検・評価した内容に対して意見を述べてよいものか悩みどころである。（委員）
 - 学校としても、専修学校における自己点検や学校関係者評価システムを委員の方にどのようにご理解を頂くべきか、極めて難しい問題と捉えている。26 年度は、学校関係者評価の運営

方法そのものを変更し、皆様に提案をさせて頂きたい。(事務局)

■学校の基本情報の公開のひとつとして、専任教員の担当する特徴的な科目のシラバスをホームページで公開することを、先般の学科長会議で承認したことを報告する。(事務局)

→学校の情報を積極的に公開していく姿勢としては評価できる。(委員)

→専任教員に限定しているのはなぜか。(委員)

→非常勤講師の場合は、シラバスの公開に本人承認が必要である。すでに次年度の講師依頼が進んでおり、確認作業のために混乱をきたす可能性があるため、今回に関しては除外した。(事務局)

→シラバスを単に公開するだけでなく、一般に見られるという意識で内容も精査する必要があるのではないか。(委員)

3. 学校関係者評価結果の今後の活用

- ① 7月までに作成予定の25年度『自己評価報告書』では、今後の改善方策について、短・中・長期を問わず具体的な改善予定時期を明示する。
- ② 専任教員担当科目のシラバス公開は、新年度の募集切り替えのためのホームページリニューアルのタイミングに合わせて5月を予定する。学科の特徴をよく表した3~5科目をセレクトする。
- ③ 26年度の学校関係者評価については、学校側で重点項目として設定した自己評価について集中的に評価を頂く方式に変更する。その上で、外部委員が評価を行うために必要な評価項目を明確化し、スムーズかつ有益な学校関係者評価となるよう形式を改める。

4. 総括

外部委員に対してどのような情報を提供することで本校の取り組みを理解して頂けるのか、或いは公平に評価して頂けるのか、本年度の2回の委員会を通じて多くの課題を見出したと言える。

前項に書いた通り、26年度は学校が重点項目と位置づける項目に絞り込んで学校関係者評価を行うことで、より活発な意見交換が行われるようにしていきたい。

以上